



あと一步の向上に向けた取組

函館市立桔梗小学校

生活習慣・学習習慣の形成 基礎的・基本的な知識・技能の習得 望ましい学習態度の育成 学校組織・指導体制の改善

1 学力向上の具体的な方策

- ①校内研修での取組
- ②個に応じた指導の充実のため、算数科におけるTTの活用、特別支援教育の推進
- ③読書活動の推進

2 取組の概要

- ①校内研修での取組
研究主題『意欲を高める言語活動
～読書活動や外国語活動における言語的活動を通して～』
〈低学年ブロック〉
◇研究仮説「本を読む楽しさを味わい、伝え合うことができる授業づくりをすることにより、思いを交流し合い、自分の言葉で表現する子が育つと思われる。」
◇研究の視点
○読書に興味や関心を持って、表現力を高める学習方法の工夫。
○言語的分野の基礎・基本をしっかりと身に付けさせる。
○読書が「楽しい」「読みたい」と思う環境づくり。
〈中学年ブロック〉
◇研究仮説「読書活動の中に話し合う場面を設定した授業づくりをすることにより、言語感覚が高まり、思いを共有し合う子どもを育てることができるだろう。」
◇研究の視点
○児童によるブックトーク。
○環境づくり（場の設定）の工夫。
○個に応じた指導。
〈高学年ブロック〉
◇研究仮説「場面設定を工夫することで、外国語の基本的な表現を使ってコミュニケーションを図ろうとする子どもを育てることができる。」
◇研究の視点
○言語や文化について体験的に理解を深める。
○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。
○外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。
- ②個に応じた指導の充実
○TTの活用（4～6年生算数）、コース別選択学習の継続。
○支援委員会を中心とした個のニーズに応じた支援のための校内体制の整備、保護者や関係機関との連携。
○長期休業中等の補充的学習サポートの実施（高学年）
- ③読書活動について
○朝読書（隔週で1年間）
○読み聞かせ会（低中学年）
○図書館まつり
○学校図書館ボランティア

3 成果（○）と課題（●）

- 意欲的にコミュニケーションを図ろうとする子どもが育った。
- 個に応じた指導ができたことで、基礎基本の定着が図られた。
- 評価方法や評価規準についての、いっそうの共通理解と工夫改善を図ることが必要になっている。
- 求められるニーズが多様化してきており、より効果的な支援が行える校内体制の充実を図ることが課題である。